

# 発掘新聞

1月25日号

平成25年復活第2号

編集・発行

九州歴史資料館

電話 0942-75-9575

【お知らせ】

収蔵品オンデマンド、土日祝日 10:00  
～16:00 当館第4展示室にて好評実施中

## 遺跡を上から見てみると

### 発掘調査でラジコンヘリコプター・気球大活躍！

←ラジコンヘリコプターによる遺跡全体撮影



気球による遺跡全体撮影→

遺跡の発掘調査では、遺跡全体の写真を撮影するために、ラジコンヘリコプターや気球による写真撮影を専門の業者に委託して行っている。最近、豊前市塔田琵琶田遺跡にてラジコンヘリコプターによる撮影を行ったので、その状況をレポートする。

竪穴住居跡など大きな遺構を撮影する際は、その形をよく見えるようにするため、通常足場を組んで高い場所から撮影する（右一番下写真）。2段以上組んで、その上に登ると高所恐怖症の記者は正直怖い。

調査面積が狭い場合などは、足場を組んで全体撮影することもあるが、面積が広く遺構が多く発見された場合は、上から遺構の状況を撮影し、記録を残す必要がある。昔はセスナ機などで撮影していたが、近くに寄るカットなどの撮影などはその性格上難しいため、現在はラジコ



カメラを搭載したラジコンヘリコプター



通常、竪穴住居などの遺構はこのような足場を組み、撮影します

ンヘリコプターや気球により撮影を行っている（上写真）。ラジコンヘリコプターによる撮影の場合、ラジヘリにカメラを搭載し、別に搭載した小型カメラの映像を電波で下のテレビに飛ばし、そのテレビを見ながら、リモコンのシャッターを押して、必要な部分の写真撮影を行う。それで撮影した写真が左側だが、遺構の配置状況がよく分かるものとなっている。（大庭孝夫記者）



ラジコンヘリコプターによる遺跡全体写真。四角いものは、遺構（竪穴住居跡）です。この写真から、遺構の密集状況がよく分かります。